2026 年 7 月 23 日

2025 年度「線区活用に関する検討会」の取り組みについて

2019 年度より、ご利用状況が大きく減少した線区を対象に、県や沿線自治体、九州運輸局と当社による協働の取り組みとして「線区活用に関する検討会」を開催しております。

この検討会では、鉄道の持続可能性を高めていくことを目的に、沿線自治体の皆さまと当社が一緒になって、線区の現状を理解し、線区活用策に取り組んでおります。

今後も本検討会の取り組みなどを通じて、地域の皆さまと持続可能な交通ネットワークの提供に努めてまいりますので、より一層各線区をご利用いただきますようお願いいたします。

○ 2025年度の開催線区およびこれまでの開催実績

【開催線区】

◇筑肥線（唐津-伊万里）
◇吉都線（都城-吉松）
◇日南線（油津-志布志）

【上記3線区のこれまでの検討会開催実績】

2019 年度：2回、2020 年度：3回、2021 年度：4回
2022 年度：3回、2023 年度：3回、2024年度：3回
2025 年度：3回、2026 年度：1回（2026 年7月23日現在） 通算22回開催

【各線区における取り組み内容】

◇別紙参照 （3線区合計の参加者：約 10,120 人、JR 利用者：約 8,300 人）

○ 今後の開催線区

◇筑肥線（唐津-伊万里）
◇吉都線（都城-吉松）

日南線につきましては、「線区活用に関する検討会」を閉会いたします。

2026 年 7 月 23 日
筑肥線活用に関する検討会

「筑肥線(唐津～伊万里)活用に関する検討会」における 2025 年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

2025年度は、筑肥線(唐津～伊万里)を持続可能な線区にするための検討会を3回開催し、線区のご利用実態に関する情報共有、意見交換及び活用策を検討・実行しました。

各主体において様々な線区活用策を実施し、多くの方々にご参加いただきました。

(検討会参加者:唐津市、伊万里市、佐賀県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社)

2. 主な線区活用策

ロマンシング佐賀の取り組み

佐賀県とロールプレイングゲーム「サガ」シリーズを展開する株式会社スクウェア・エニックスがコラボした「ロマンシング佐賀」は、昨年で 11 年目を迎えました。本年度も、2022年度より運行している「ロマ佐賀列車」を継続して運行し、利用促進を図りました。

新規通学定期券半額補助キャンペーン

2025年 10 月～2026 年3月の有効期間を対象に、「唐津線・筑肥線新規通学定期券半額補助キャンペーン」を実施しました。

66 名(うち筑肥線利用5名)のお客さまからお申し込みがあり、車による送迎等から、列車通学に転換を促した結果、鉄道の利用促進を図ることができました。

© SQUARE ENIX

マイレール意識の醸成

筑肥線沿線の小学校へ駅壁画の制作を依頼するなど、地域のみなさまと連携して駅の賑わいを創出するとともに、鉄道を大切に思う沿線の気持ちを発信しました。また、伊万里市内の小中学生を対象に、鉄道に関する絵画コンクールを実施し、沿線の子どもたちのマイレール意識の醸成を図りました。

応募総数:202 点
※筑肥線と松浦鉄道の合計

公共交通機関の利用促進

自治体のホームページ、公式 LINE を活用して、公共交通機関の利用促進を図りました。

全体

この他にも、D&S列車「かわせみ やませみ」特別運行ツアーや駅周辺でイベントを実施する団体への補助など全 11 件の線区活用策を実施し、イベント等を含めた全体の参加者は約 2,120 名、うち JR 利用者は約900名でした。

2026 年 7 月 23 日
吉都線活用に関する検討会

「吉都線活用に関する検討会」における 2025 年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

2025年度は、吉都線を持続可能な線区にするための検討会を3回開催し、線区のご利用実態に関する情報共有、意見交換及び活用策を検討・実行しました。

また、ご利用状況を改善するため、JR 吉都線利用促進協議会や沿線自治体等においても様々な線区活用策が実施され、多くの方々にご利用いただきました。

（検討会参加者：都城市、高原町、小林市、えびの市、湧水町、宮崎県、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社）

2. 主な線区活用策 （JR 吉都線利用促進協議会及び沿線自治体等による取り組み）

イベント実施による利用促進

吉都線沿線で以下のイベントを開催し、吉都線及び地域の魅力を発信しました。

・吉都線ウォーキングin高原駅
・フォトジェニックツアー
・JR 九州宮崎車両センター見学ツアー
（JR 利用者：合計100名）

都城駅　交流スペースの整備

JR 都城駅の構内に、駅利用者や地域住民が気軽に集える新たな「交流スペース」を整備しました。

地元の学生たちがデザイン考案から実際のリノベーションワークショップまで深く関わり、アイデアを出し合って作り上げました。列車を待つための空間だけでなく、日常の憩いの場としても機能しています。

通勤定期の購入支援

吉都線を積極的にご利用いただける企業をJR吉都線応援企業として認定し、同企業に勤める方が吉都線の通勤定期を購入する費用の一部を補助しました。

吉都線団体利用への支援

沿線の団体が吉都線を利用される際の運賃補助を行い、小中学校をはじめ 39 団体がご利用になりました。

（JR 利用者：1,140 名）

全体

この他にもノベルティ配布や、駅周辺の美化活動など、全 11 件の線区活用策を実施し、全体の参加者及び JR の列車をご利用頂いた方は約 2,000 名でした。

2026 月 7 月 23 日
日南線活用に関する検討会

「日南線活用に関する検討会」における 2025 年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

2025年度は、日南線を持続可能な線区にするための検討会を3回開催し、線区のご利用実態に関する情報共有、意見交換及び活用策を検討・実行しました。

また、ご利用状況を改善するため、JR 日南線利用促進連絡協議会や沿線自治体等においても様々な線区活用策が実施され、多くの方々にご利用いただきました。

（検討会参加者：宮崎市、日南市、串間市、志布志市、宮崎県、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社）

2. 主な線区活用策 （JR 日南線利用促進連絡協議会及び沿線自治体等による取り組み）

各種イベントとのコラボによる利用促進

日南線沿線で開催される各種イベントとコラボし、鉄道利用促進を図りました。イベントでは、オリジナルグッズや会場で使用できるクーポン券等を配布し、日南線の PR を行いました。

・青島ビールまつり　・プロ野球キャンプイベント
・串間市民秋まつり　（油津・南郷駅）

高校生ツアー企画事業

日南市内の高校生と連携を行い、日南線の列車を利用したツアーを企画しました。列車内では、高校生自らが沿線ガイドを行い、日南線・飫肥の歴史クイズが実施され、日南線の魅力を発信しました。

（JR 利用者：45 名）

フェニックスリーグツアーの企画

日南線を利用したプロ野球観戦ツアーを企画し、日南線の利用機会の創出を行いました。

志布志駅～油津駅を往復利用するツアーを企画した結果、定員を上回る応募があり、多くの方へ日南線の魅力を発信しました。

（JR 利用者：152名）

日南線フォトジェニックツアーの開催

フリー鉄道アナウンサーの田代剛さんと写真家の福島啓和さんが同行し、フォトジェニックな撮影方法のアドバイスを行うツアーを企画しました。

ツアーのために特別運行した「キハ40形（首都圏色）」にて日南線の魅力あふれる場所を巡りました。

（JR 利用者：20 名）

全体

この他にも「JR 乗り方教室」や「観光列車『海幸山幸』貸切運行に対する補助」など全 16 件の線区活用策を実施し、イベント等を含めた全体の参加者は約 6,000 名、うち JR 利用者は約 5,400 名でした。